

ネットワーク上における人間関係の形成 ～「共感」に焦点を当てて～

1240422 甲藤結菜
指導教員 上村浩

・研究背景

現在インターネットが普及したことで様々な人と繋がることができ、コミュニティの増加によってオフ会やイベントが催されている。一方でインターネット、SNS の繋がり起因した事件も少なくない。しかし、SNS で繋がった人以外の物理的な繋がりの人との関係性に閉じるべき、という極論は、逆に現代の特に若者の人間関係を限定してしまう可能性が高い。

・研究目的

本研究では、「友人関係の継続は、共通性と情報開示の範囲との相互作用の結果として表出される「回避性」の高さに依存する。」という研究課題について、インタビュー調査を用いて明らかにすることを目的とした。

・研究方法

予備調査として 10 名を対象にアンケートを実施した。さらに、この中で「自身にとってネガティブな私的情報は、物理的な友人よりもインターネット上の友人に対してのほうが開示しやすい。」と回答した 3 名を対象にインタビューを行った。インタビューの内容に基づいて、上記の研究課題について検証する。

・分析結果

インターネット上の友人関係は、ある特定の対象に関する共感を基盤とした共通性および、広く浅い情報開示の範囲特性によって「回避性」が低くなることによって維持されることが明らかになった。

・考察・結論

物理的な繋がりではないインターネット上の繋がり人間関係においてその重要度が増しており、意義があることを見出した。しかし、回避性が低いからこそ、自分の中で「共感」で繋がった「友人」として、関係性を育まなければ、回避性が限りなく 0 に近づく危険性がある。